

住吉祭

広島で二番目に大きな夏祭り、住吉祭は、広島市の伝統的な三大祭りの 1 つで、市内を流れる水に注目したお祭りです。正式な名称は、夏越大祓（なごしのおはらい／夏の大祓いの意味）といい、参加する人たちは前年の悪運や負の感情や考えを取り去るチャンスが得られます。しかし元々このお祭りは、一年の中間の健康診断のような役割も担っていて、病の治癒や、病気から自分を保護する時期として捉えられていました。神道のお祓いの儀式において水は重要な役割を持っているため、海の神様を祀った住吉神社がお祭りの中心となっています。

お祭りの期間中にはいくつかの伝統的儀式が行われます。まず、神官が 3 メートル幅の茅の輪（草で編んだ輪）を神社の前に設置します。輪の中と周りを数字の 8 の字の形を描くように歩くと、病を洗い流すことができ、一年の残りの期間を病気や災難から守られて過ごすことができると言われています。神社では、小さな人形（ひとがた）も提供していて、この紙の人形は人々の前年からの心配や間違い、悪行を取り去ってくれると信じられています。人々が自分の罪を人形に移すことで、その重荷を下ろして、来る一年を過ごせると考えられています。この人形は重要なお祭りのハイライトの 1 つで、集められた人形は川に浮かべた舟の上から水に流されます。

夜には、人々は水辺に集まって、木製の手漕ぎ船（漕伝馬船）が神社を出発して広島のを巡るのを見物します。神官と唄う漕ぎ手、太鼓の叩き手、そして神輿（移動可能な神社）を乗せた船の行列は、日没になって提灯が灯される前でも、とても見応えのあります。お祭りの 2 日間のうち 1 日は御神楽の奉納があります。神楽とは神道の儀式的踊りで、その歴史は 1000 年以上にわたります。広島のを賑やかな神楽は有名で、住吉祭りでは、踊り手もお囃子も全員約 8 歳の子供達による特別な神楽が奉納されます。